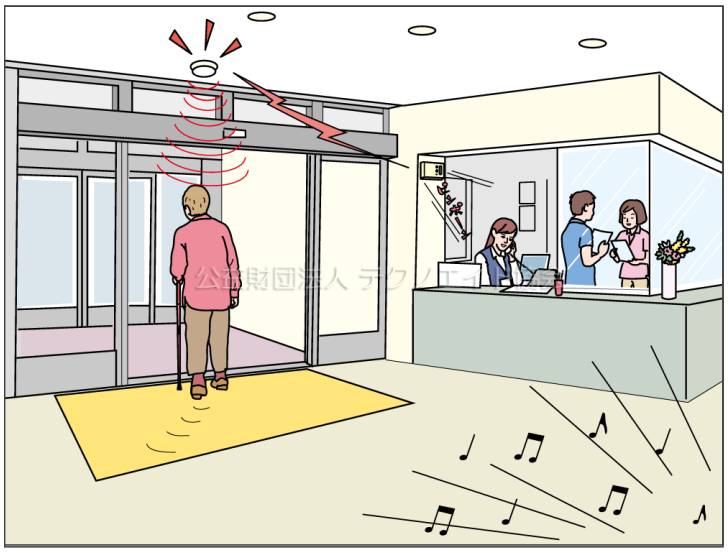
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：359

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、屋外を徘徊していた

場面の説明

施設入口の徘徊感知機器の音に気が付けず、認知機能の低下した高齢者が、屋外を徘徊していた



利用シーン	その他
主な利用場所	玄関
介護保険の種目	認知症徘徊感知機器
分類コード(CCTA95)	215190 (徘徊老人監視システム)
介護テクノロジー	見守り・コミュ（施設）
二次元バーコード	

解説

職員が他の作業をしていて、玄関の徘徊感知機器の音に気が付けなかった事例です。徘徊感知機器は電源直結のものもありますが、電池式の場合、いつの間にか電池が弱くなり、音が小さくなったり、ならなくなったりします。定期的な音量チェックが必要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：センサーの音量チェックができていなかった
人：騒がしい状況での作業により、機器の音が聞こえなかった
環境：まわりが騒がしかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.